



# 地球大学アドバンス [第26回]

## 生物多様性シリーズ(1) 地球の担保「種子」を守る

2010.1.25 mon

2010年は「国際生物多様性年」——。生物と文化の多様性は、この惑星の豊かさの根本であり、地球生命系の持続可能性と安全保障の担保ともいうべき重要な問題です。しかし、その多様性が目に見えないレベルでいま危機に瀕しています。

私たちが普段、口にする野菜や穀物は、国産・輸入品を問わず“モノカルチャー化”が進んでいます。日本でもここ数十年、ほとんどの農作物が収量も多く農作業の管理もしやすいF1種に変わり、地域の固有種は姿を消しつつあります。市場では一見色とりどりの野菜や見慣れない果物が並んでいるようで、実は「種子」の次元での画一化(農産物の工業製品化)が進んでいるのです。

固有種は味が深く、風土に応じた多様性があるだけでなく、病害虫に強く、天候不順や災害にも生き残る種が出てくるという意味で、気候変動や食糧危機の時代にはあらためて重要性を増す地球の担保。しかし、こうした固有種を守っていくのは、経済原理に左右されるプロの農家よりも、むしろ自家消費の家庭菜園で小規模ながら多様な作物を育てる自由をもった市民ではないかと、今回のゲスト野口氏は力説します。

小さな固有種の菜園も、ジグソーパズルのようにつながれば、地球の生物・文化多様性の大きな「箱舟」となる。今回は日本と世界の固有種のデータベースを構築しながら、こうした種子の多様性保全の活動をされている野口勲氏に、たっぷり2時間お話を伺います。

### [topics]

- 野菜と種子の「モノカルチャー化」～日本と世界の状況
- そもそもF1種とは何か? 地域の固定種とのちがい
- いろいろな野菜の隠れた「物語」(地球史的な来歴など)
- 生物多様性を保持してゆく主役はプロの農家より一般市民
- 種苗戦争～タネの自給率、F1種から遺伝子組替え作物へ、地球の「タネ」の行方

### 開催概要

日時:2010年1月25日(月) 18:30~21:00

ゲスト:野口 勲 氏 (野口種苗研究所 代表)

企画・司会:竹村 真一 氏

Earth Literacy Program 代表

エコツェリア・コンテンツプロデューサー

会場:新丸ビル10階「エコツェリア」

地図:<http://ecozeria.jp/access.html>

定員:50名(定員になり次第締め切りとさせていただきます)

参加方法:事前登録が必要です 事前登録URL <http://www.ecozeria.jp/earth/>

参加費:エコツェリア会員企業に所属の方:無料

\*名刺にて照会いたします。名刺(社員証)を必ずご持参下さい。

エコツェリア会員企業非所属の方:有料2,000円

\*新型インフルエンザの発生状況により、急遽イベントを中止することがございます。状況に応じて、参加申し込みの方には、お知らせいたします。

プログラム 18:00 受付開始/18:30 開演/21:00 閉会